

借景

フランス窓を押し開き
我子は目映ゆい陽光に目を細める

妻は食卓で次第に冷えてゆくトーストの香りを見守る
没落の幸福に満ち足りて

素足の、これが私の想い
心地良い人生の疲れに導かれ
かすかな風が手招きをする
ひとひらの葉の舞い落ちてゆく水辺へと

許されてあれ
時が流れ消えゆくままに私の赴くことを
^{いま}現在に生きる者に求めるものなどあるはずもない
生すらも流れ消えることを欲するのだから

洗練された趣味と身のこなし
生活を踏み外すことの決してない規範
それらが私を導いてくれるであろう
そして私はそれに従ってゆくであろう

(1991.9.2)